

すずらんの活動報告 ～震災から10ヶ月と今後の課題～

2012.1.28@大阪大学

大阪大学災害ボランティアサークルすずらん

「学生としてのできる限りを、被災地の復興のために」

発表内容

1

団体概要

- すずらんの概要
- 活動趣旨
- 3つのプロジェクト

2

3つのプロジェクト

- 野田村支援プロジェクト
- 福島支援プロジェクト
- 関西後方支援プロジェクト

3

まとめ

すずらんの概要

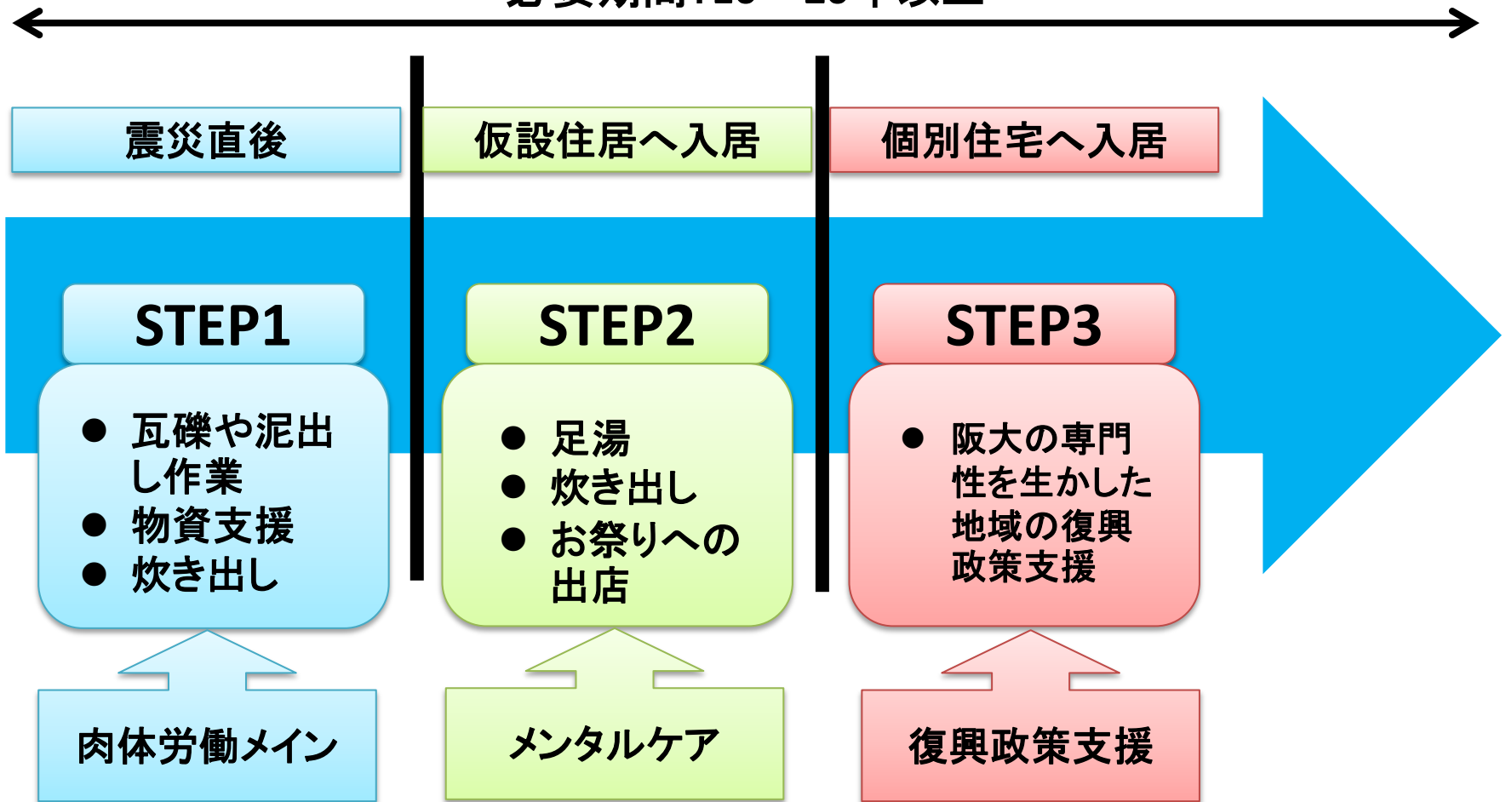
簡単に言うと・・・

3・11の東日本大震災を受けて立ち上がった
阪大の 災害ボランティアサークル

- 4月の阪大の災害ボランティア説明会より発足
✓ 学年・学科を超えた15名の阪大生により構成
- すずらんスタッフによる復興支援活動と被災者と支援したい学生を結ぶハブ組織としての機能を目的とするサークル。

活動趣旨

必要期間: 10~20年以上



- 長期に継続した地域密着・被災者と心の通った支援活動の実施

3つのプロジェクト

● 野田村支援プロジェクト

被災地である岩手県九戸郡野田村の復興支援活動



● 福島支援プロジェクト

福島原発事故の被災者及び福島への支援活動



● 関西後方支援プロジェクト

非被災地である関西の人々に被災地の状況を伝え、今回の震災・原発災害を自分たちの問題として認識してもらう活動

発表内容

1

団体概要

- すずらんの概要
- 活動趣旨
- 3つのプロジェクト

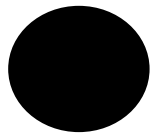
2

3つのプロジェクト

- 野田村支援プロジェクト
- 福島支援プロジェクト
- 関西後方支援プロジェクト

3

まとめ



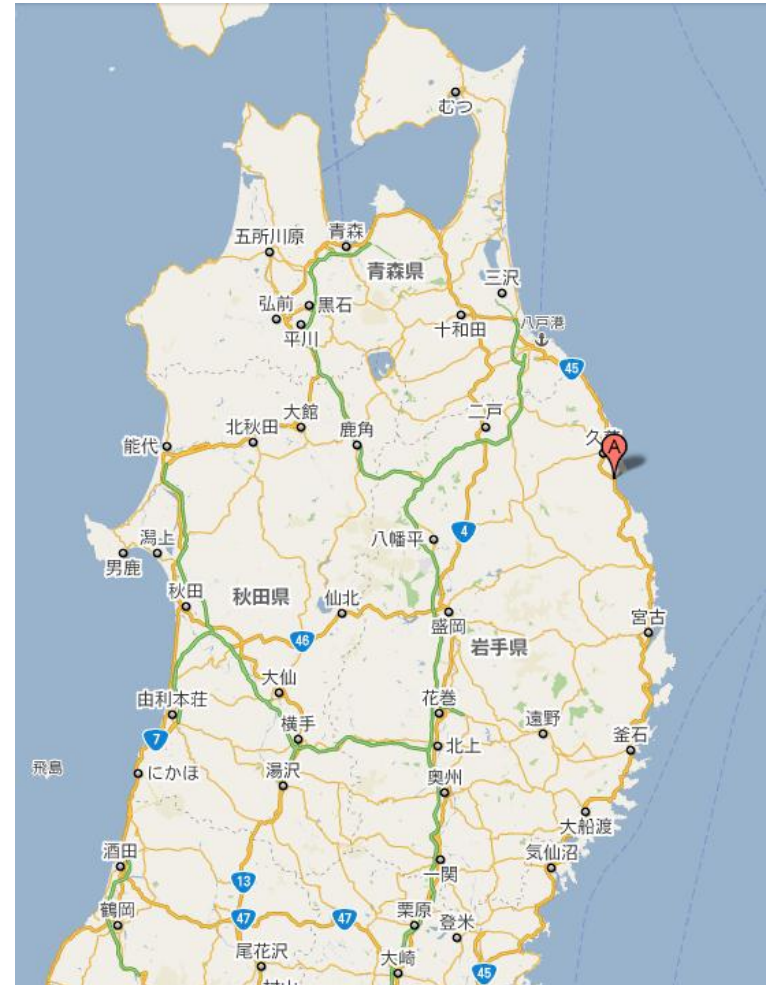
野田村支援プロジェクト

野田村の概要と被害状況

- 人口 4632人(2010年時点)
- 人的被害
 - 死亡者 37名
 - うち村内死亡者 28名
 - 行方不明者 0名
- 家屋被害
 - 全壊家屋 300棟以上
 - 半壊家屋 150棟以上

(野田村ホームページより引用)

- 被災地の中でも最北に位置する
- 被災者比率(浸水人口/村人口)が50%-70%と高い
- 村の中心街が沿岸部に広がっている
- 水産業中心
- 約500名が仮設住宅で生活(2012年1月現在)

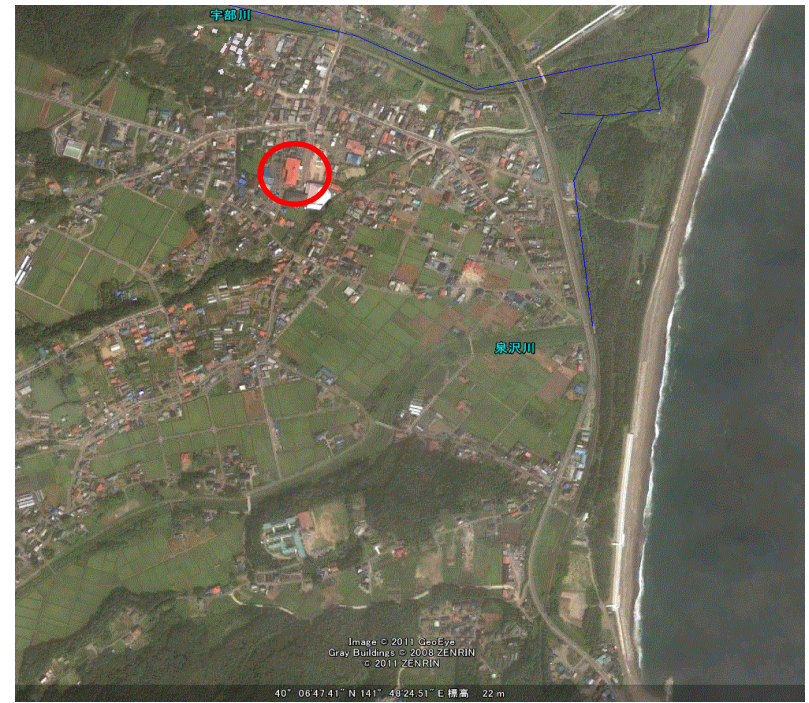
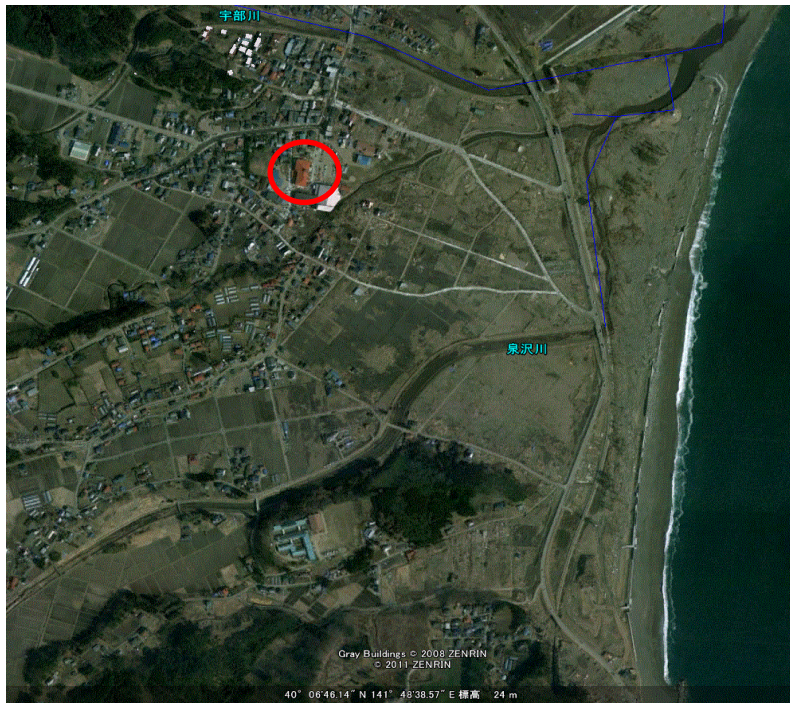


→ボランティアの支援が特に必要な被災地



被害の様子(役場周辺)

- 役場周辺の消防署、市街地、公民館等が被害
- 災害時に対策本部として機能する村の主要拠点は、機能不全となった。



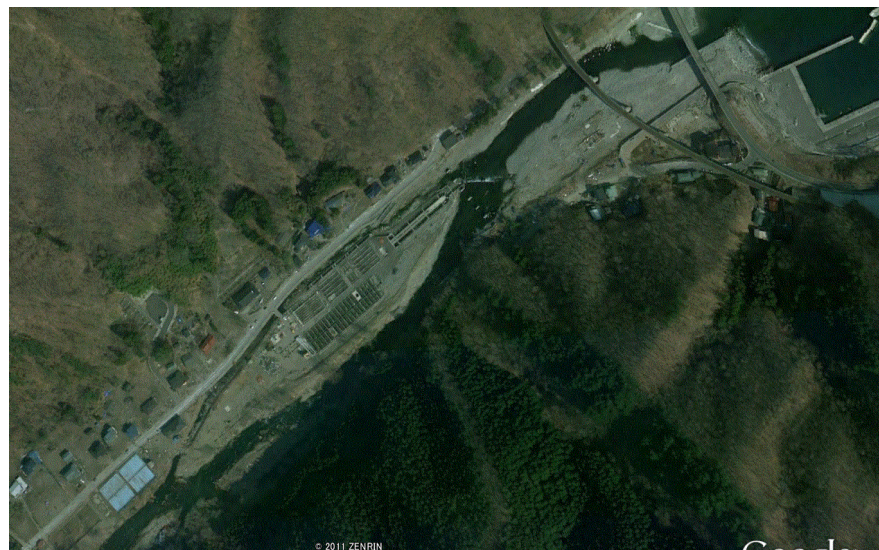
野田村 村役場周辺の被災前後の様子(左:H22.9、右:H23.4) ○ : 役場

出所: Googlemapより作成



被害の様子(下安家)

- 村の主要産業であり、全国的にも有数の生産量を誇っていた鮭の養殖場が全壊



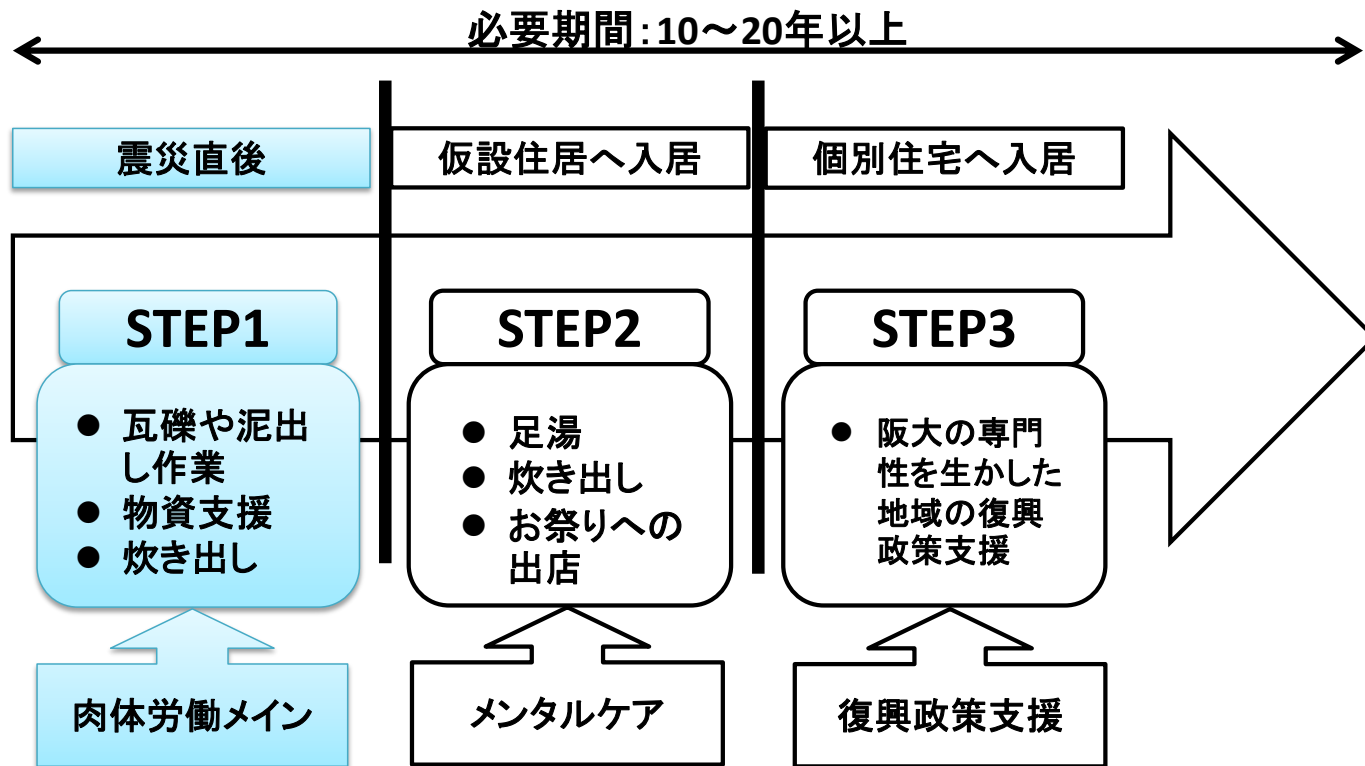
下安家の鮭の養殖場の被災前後(左:H22.9 右:H23.4) 出所:Googlemapより作成

橋桁が流出し、
施設に甚大な被害



野田村での活動事例:5月～6月

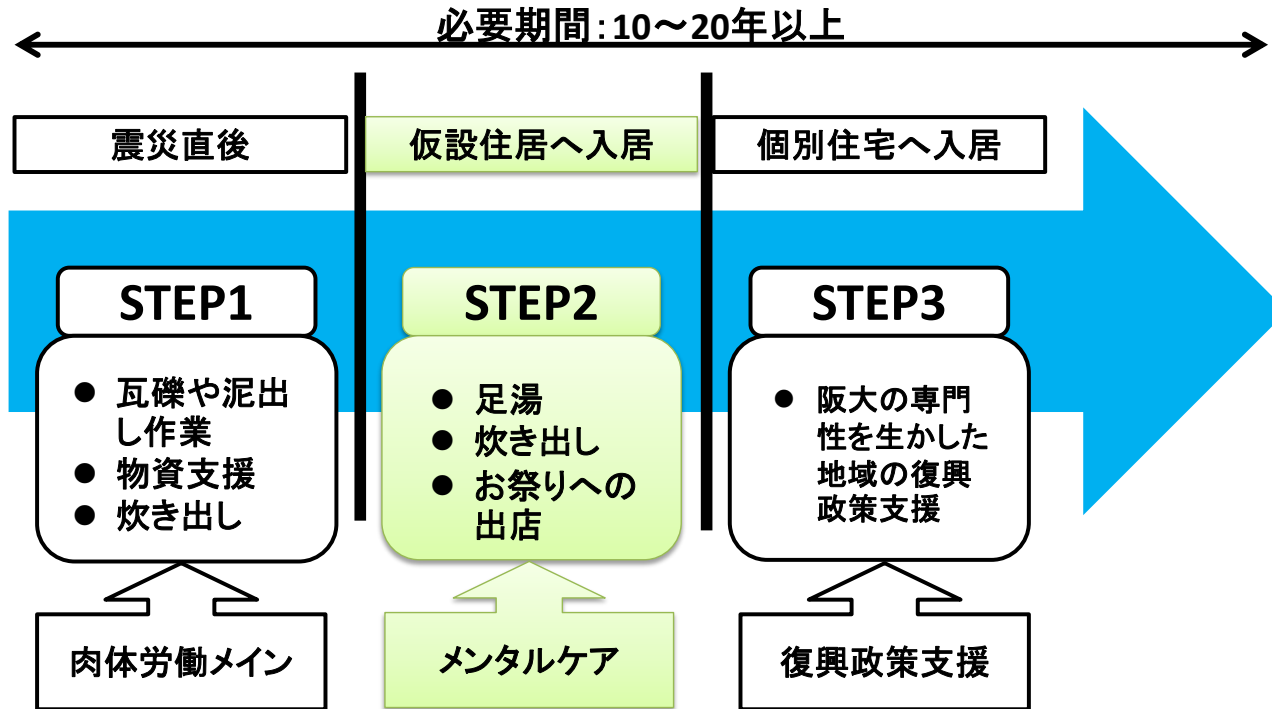
- 日本災害救援ボランティアネットワーク(NVNAD)の協力で活動実施
- 野田村のボランティアセンターの指示を受けて活動
- ガレキ撤去・泥だし作業等、**肉体労働が中心**
- 大阪大学で集めた支援物資の配布





野田村での活動事例：7月～9月

- 赤い羽根共同募金、日本財団からの助成金により活動
- ボランティアバス「すずらんバス」の運行
- 野田村の復興祭への参加
- 仮設住宅や地域のコミュニティ形成のための支援へ移行



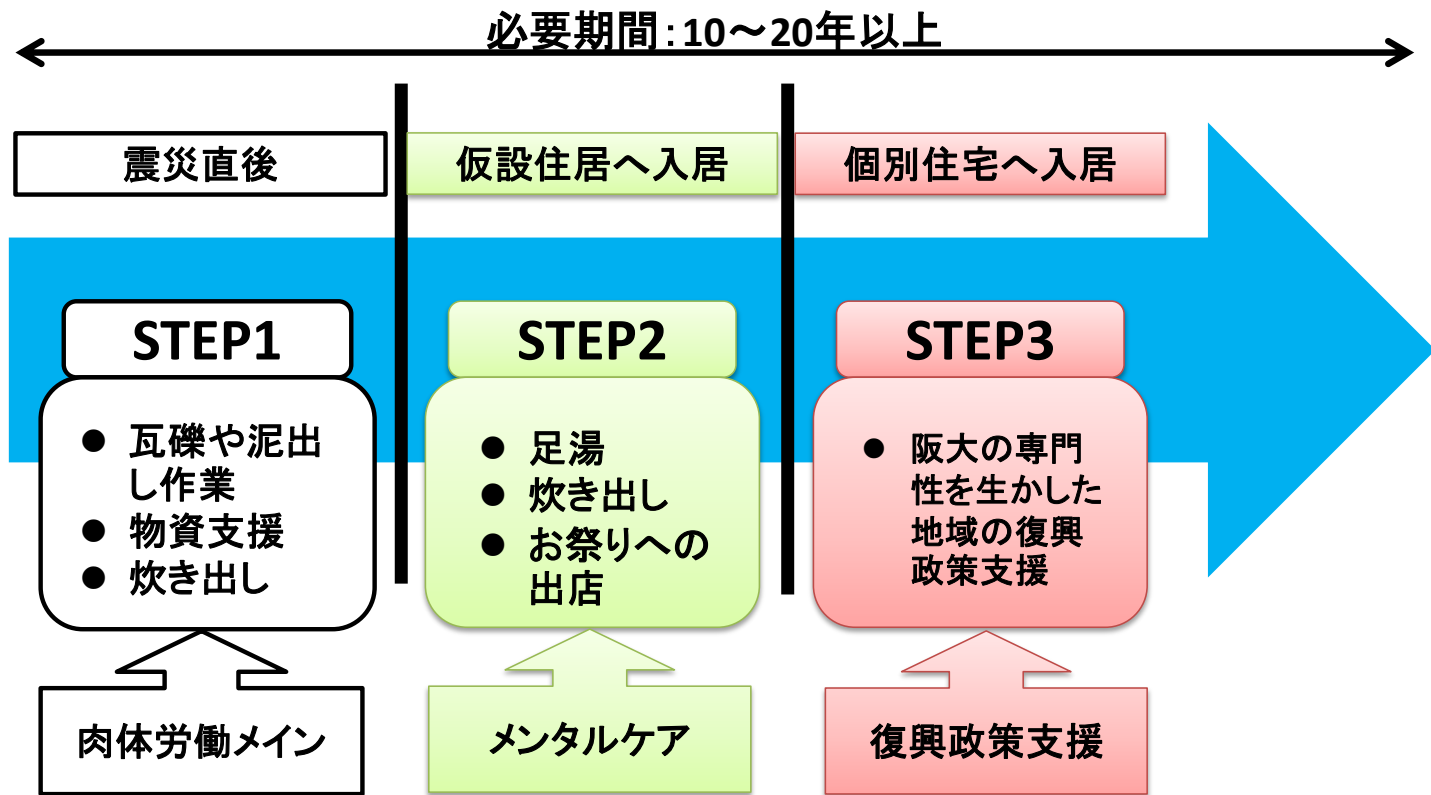






野田村での活動事例：10月～1月

- 仮設住居のコミュニティ形成の支援が中心
- 村の復興計画も定まり、新たな生活に向けた経済・雇用支援の必要性







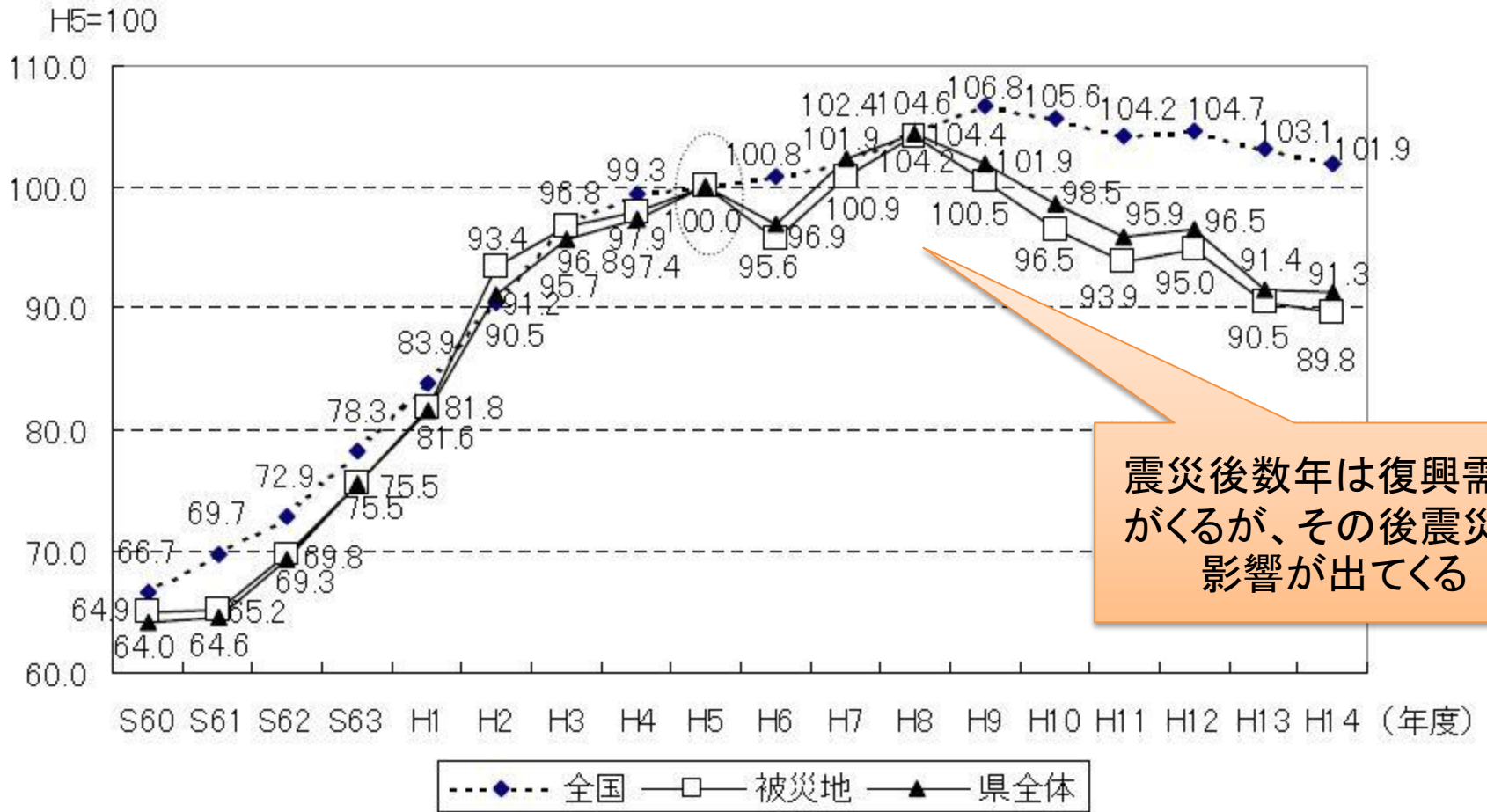
見えてきた課題

- 支援ニーズの急速な変化及び多様化、高度化
 - 被災者の望む支援は単純なガレキ撤去作業から、**コミュニティ活性化、補償問題、移転問題、産業・雇用問題**へと進化
- 被災地の自立とボランティア支援のジレンマ
 - いつまでもボランティアが被災地に介入していいのか
 - 与えるだけのボランティアでなく、**被災地の住民、行政、企業の3つのアクターが各々の自立**を確立した上で復興を進めていくことが必要



- **コミュニティ活性化と産業・雇用支援の両輪の活動を！**
 - ・ コミュニティ活性化や孤独死防止のために被災者に寄り添う活動の継続
 - ・ 一方で、産業・雇用問題に対してもボランティアとしてできる支援の実施
- **被災地の自立に向けた活動を！**
 - ・ 支援→応援へ。「ファン」として被災地を見守る。
 - ・ 企業、行政と被災地の住民の間を仲介する役割をボランティアが担う。

阪神淡路大震災：被災地域の総生産推移



震災後数年は復興需要
 があるが、その後震災の
 影響が出てくる

図Ⅱ-1-5：被災地域における総生産の推移
 (出典：国民経済計算，兵庫県民経済計算)

出所：指標等からみた復興10年の成果収集調査

すずらんのこれまでの支援(雇用・産業面)

■ 活動の基本姿勢

野田村の方々の「自立」

■ 具体的な活動

① アクセサリー・小物の販路開拓
(グラシアの会に協力)

② 物産展
(学園祭にて出展)

③ 募金活動
(学園祭にて実施)

■ 成功例

- ✓ 手に職を与えることができた。
- ✓ 大阪で野田村の物産を広報することができた。

■ 課題

- ✓ アクセサリー・小物では少額の支援にしかない。
- ✓ 販路として規模が小さい。学内・学生のみでは限界がある。
- ✓ 募金の寄付をしようとしても、「外部からの支援はいずれ途切れる」として拒否された。



見えてきた課題(産業・雇用面)

① 金銭支援よりも、後方支援を

- ボランティアなど「外部からの支援はいずれ途切れる。自力で復興させたいので、余計なことはしないでほしい。でも、自慢の鮭の宣伝はしてほしい。」

② 仕事へのモチベーションを高める

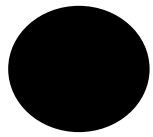
- 求人はあるのに応募がない状況。まずは働く意欲を掻き立てる必要がある。

③ 観光アピールを

- 野田村の復興計画では、震災に負けない野田村を広く県内外に発信し、観光客の誘致を推進するとある。
- また、特産品の野田塩の販路拡大を推進するとある。

④ 中長期的視点での支援を

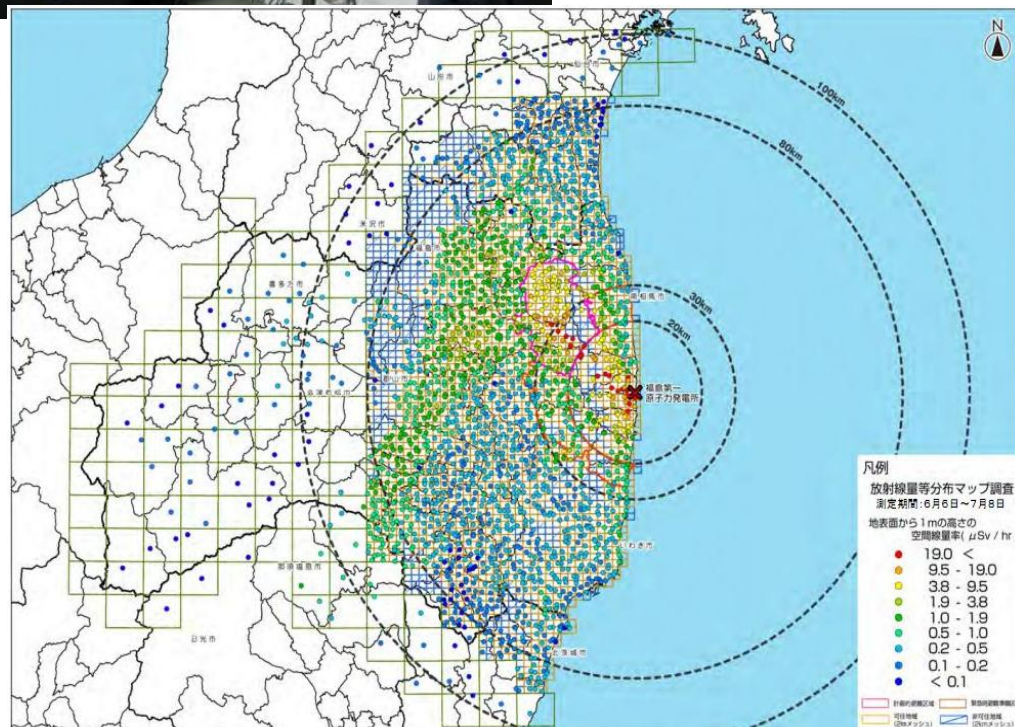
- 雇用問題は喫緊の課題であるが、震災の影響は何年もかけてやってくる。中長期的視点で、野田村の復興支援の在り方を考える必要がある。



福島支援プロジェクト

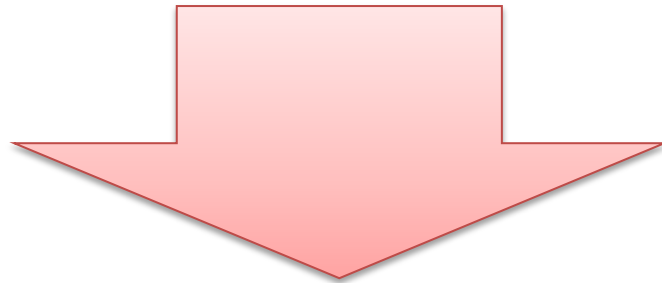
福島支援プロジェクト

- 文科省主催放射能汚染マップ作成のための、汚染土壌のガンマ線スペクトル測定
- 福島の風評被害克服キャンペーンの検討
- 福島大学の学生との議論による現地の支援ニーズ調査
- 待ちかね祭にて福島の地酒物産展の実施



見えてきた課題

- 必要とされる支援は、除染と県外移住にかかる費用の補償問題が中心
- 風評被害克服の難しさ
 - 食品の仕入れにおいては、北関東産というだけで仕入れを拒否する企業が存在
 - 福島と聞くだけで糞にさわるかのような反応



- 阪大から除染ボランティアを福島へ！
 - ✓ 福島の除染には少なくとも5年を要する。継続的なボランティアの導入を通じて除染を実施するとともに、福島の復興を全学で考える機会に。
- 福島の復興を全学で考える機会を！
 - ✓ 全学規模でシンポジウム等の開催
 - ✓ 支援の難しい福島だからこそ、非被災地の私たちが真剣に福島の復興支援の在り方を考え、実践していく必要がある。

● 関西後方支援プロジェクト

関西後方支援プロジェクト

● 学内での活動報告会の開催

- 阪大、神大など複数の災害ボランティア団体との情報交換
- 一般の学生、教職員に、被災地の状況を報告

● 学園祭で物産展の実施

- 関西圏の学生に対し、被災地の情報発信をするとともに、金銭的な支援活動を実施

● NPO主催のフォーラムに参加

- 関西圏の市民に向けた被災地の情報発信



見えてきた課題

- **非被災地の関西における被災地への関心の低下**
 - メディア報道の変化や被災地の支援ニーズの高度化が一つの原因
 - ボランティア参加者の減少のため、継続的なボランティア活動が困難に
- **南海・東南海地震に備えたボランティア体制の構築の必要性**
 - 今後30年以内に震度6以上が予想される南海・東南海地震の発生確率50-60%
 - 311東日本大震災から学んだ教訓をもとに今後起こりうる災害へ備える必要性
 - しかし、震災から時間が経過するにつれ、ボランティア団体の維持が困難に



- **被災地の状況を具体的に情報発信し、ボランティア活動の維持を！**
 - ✓ 被災者に寄り添うボランティア活動の維持
 - ✓ ボランティア助成プログラムへの寄付の呼びかけ
- **大学が率先し、学生の災害ボランティア活動の支援を！**
 - ✓ 震災復興の節目に全学を挙げたシンポジウムの開催
 - ✓ 消防やNPO等と学生が連携し、災害時の防災・ボランティア訓練の実施

発表内容

1

団体概要

- すずらんの概要
- 活動趣旨
- 3つのプロジェクト

2

3つのプロジェクト

- 野田村支援プロジェクト
- 福島支援プロジェクト
- 関西後方支援プロジェクト

3

まとめ

まとめ

● 野田村支援

- 被災地の自立を目指し、支援から応援へ・ボランティアからファンとして被災地を見守る
- 被災地住民、行政、企業の3者の仲介役としての支援を
- コミュニティ活性化の支援はもちろん、産業・雇用支援を

● 福島支援

- 除染ボランティアの実施を
- 福島の復興を全学で考える機会の創出を

● 関西後方支援

- 関心の低下が顕著
- 大学が率先し、継続的なボランティア活動の維持を
- 南海・東南海地震に備えた対策を

山積みのがれきが片付いても、復興するまでの問題はなお山積です。
あの震災を他人事にしない。
ひとりひとりが考え、行動しよう。